

柏ビレジ自治会便り

2011年10月号



柏ビレジ・ニュース

2011年10月8日
柏ビレジ自治会発行
自治会事務局（自治会館）
TEL 04-7132-1925
FAX 04-7132-1965

育てよう 地域の絆 ★ 防犯★ 防災力！

定期計測始まるー環境部 放射能測定器購入!!

放射能測定器を購入しました。
購入日 7月20日 購入先 東洋計測(株)
購入価格 ￥69,800
機種名 DoseRAE2

測定場所 ビレジ夏祭り開催を前に近隣公園自治会館内
回覧、自治会館事務所に掲示
8月2日 8月6日 8月11日 8月18日 8月28日

今後の対応

9月からの測定頻度、測定場所は以下の通り。
毎週1回の測定とし、場所は水辺の公園、花野井小学校(グランドゴルフ大会の開催場所)10月末まで。それ以後は自治会内で関係部門と協議の上決定する予定です。

また、貸出しを希望する声を多くいただいておりますが、精密機器であるうえに測定方法も簡単ではありません。貸出すための管理や事務手続きを考えると今の状況では大変難しく、残念ではありますがお断りしています。今後、皆様のご要望に沿えるよう、なるべく多くの箇所で測定していきますので、何卒、ご了承ください。



ご近所力

夏季夜間パトロールを実施ー防災部

去る7月13日より8月13日までの土曜・日曜日に有志による恒例の夏季夜間パトロールを実施いたしました。(7月31日は休み)

申込者は128名(経験者約7割、初参加者約3割)で、ご夫婦やお子様連れでご参加いただいた方も含め、7日間の延べ参加者は230名でした。初日は62名と申込者の約半数の方の参加がありました。以降は約30名でした。今回は、巡回区域及びメンバーを参加者相互の交流を目的に、抽選組合せ方式により決め、6グループに分かれ、暑い中、約1時間に亘りビレジ全域を熱心にパトロールしました。ご参加の皆様には厚く御礼申し上げます。ビレジの約1600戸は東西南北に広がっており、参加者が少ない日にこの広域をカバーするには参加者への負担も大きく、今後は少人数時には2日間で全域をカバーする等の工夫や共助意識の更なる育成を目的とした全般的な見直しも必要かと思っています。尚、パトロール期間中に発見された故障した街路灯(3件)・防犯灯(5件)は早速、修理しました。今後、お気づきの点は、支部長までご連絡下さい。又、劣化した防犯用立看板は取り替える予定です。引続き冬季夜間パトロールを予定しておりますが、一人でも多くのご参加を期待いたしております。

盗難(住宅侵入盗、自動車盗等)に注意

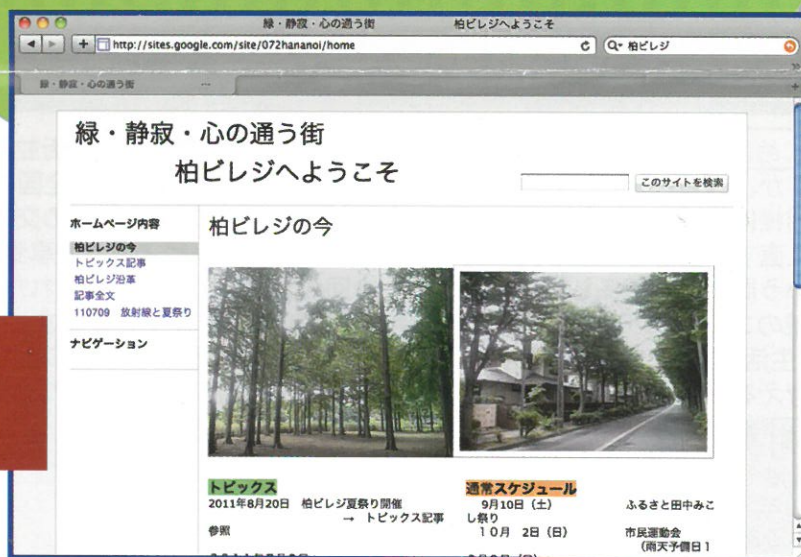
残念なことにパトロール期間中に住宅侵入盗(就寝中の忍び込み)が多発いたしました。施錠忘れや窓ガラスを割っての侵入、台所等の鍵の掛かった窓そのものを外から取り外して侵入するといったケースが報告されています。これ等の犯行は、短期間(又は同一日)にほぼ同一(又は隣接)区域で行われているということが特徴です。犯罪を防ぐには日頃から各人が防犯対策を心掛け実践するとともに他人のプライバシーを尊重しつつ隣近所で監視の目を持つ心掛けをお願いいたします。

下水道移管についての説明会にご参加下さい

市への下水道移管(公共下水道化)について説明会が花野井小学校の体育館にて下記の日程で行われます。対象の支部を決めて4回予定していますが、ご都合のつく日時でも構いませんので、ぜひご参加ください。

- 1) 10月 1日(土) 午前10時から…1・2・3支部(4 5 6戸)
- 2) 10月 8日(土) 午前10時から…4・5・6支部(5 4 6戸)
- 3) 10月29日(土) 午前10時から…7・8・9・10支部(4 6 8戸)
- 4) 11月中に追加で1回

柏ビレジのホームページが できました!



Q: どうしたら見ることができますか?

A: YahooまたはGoogleで

「柏ビレジへようこそ」と記入して検索する。

または、URLアドレスを記入して呼び出す。

URL: <http://sites.google.com/site/072hananoi/>

今後ビレジの皆様へ共通する要望・希望も掲載していきますので、ご協力よろしくをお願いいたします。 連絡は、自治会館宛 FAX(04-7132-1965)にてお願いいたします。

10月22日(土)

参加者募集! グラウンドゴルフ大会

場所: 花野井小学校校庭
午前9時から

「生き残る判断、生き残れない行動」

鍵をにぎる普段からの防災訓練

光文社の『生き残る判断、生き残れない行動』という長い題名の本が、東日本大震災の影響もあって話題になっている。

世界中を震撼させた9・11テロ事件、ブッシュ前大統領の支持率を急落させたニューオーリンズの巨大ハリケーン「カトリーン」、ワシントンのポトマック川旅客機墜落事故などの大事件・大惨事に遭遇し、紙一重で生き残った人達の生の証言を集め、その中から何らかの法則を見出そうというのが本書の狙いだ。

著者のアマンダ・リプリー女史はタイム誌の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」のキャバレーで活躍する著名なジャーナリストを取り上げるなど米国ではかなり著名なジャーナリストである。

大災害生存者からの証言の取材を通して、著者が最初に得たのは、大災害に遭った直後の多数の人々の反応はパニックに陥るどころか、むしろ逆の極めて「のろい」行動を取ったという意外な事実である。

9・11のテロ事件でワールドトレードセンターに飛行機が突っ込んだ時、多くの人は走らなくてもよりゆっくりとした行動を取り、われ先に階段へ殺到するようパニック現象は少なく、そのため次にビルが崩壊してしまつた時に、逃げ遅れて多くの犠牲者が出たとされている。

こうした行動は、心理学的には「否認」と呼ばれ、原因は「脳にある」といふ。被害に遭った時多くの人の脳は最初、現実には起きたことを正確に把握することを拒否、何も起きていないと思ひ込ませる傾向にあり、恐怖に身が凍むのか「否認行動」と呼ばれる一種の麻痺、催眠状態に陥ってしまうというわけである。

人間だけでなく他の哺乳類や鳥類、甲殻類、両生類など多くの生き物も極度の恐怖にさらされると完全に活動を停止するという強い自己防衛本能を持っているのである。

災害時の人間の「否認行動」による危険を避けるには、やはり普段からのキチンとした防災訓練が鍵になるとされ、本書でもワールドトレードセンターの73階に事務所があったモルガンスタンレー銀行の警備主任リック・レスコラ氏の話が詳細に紹介されている。軍隊出身でベトナム戦歴のあるレスコラ氏は、極度のストレスの下で脳を働かせる最上の方法は、予め何度も繰り返して練習することという経験則があり、災害時に備え73階から地上への階段を使って避難する訓練が何度も実施されていたという。9・11テロで2機の飛行機がビルに突っ込むという異常事態の中、2、6、8、7人の社員たちは「まるで魔法をかけられた」ようにいつもの訓練どおりの退避行動をとり、ほぼ全員が救助されたそうである。

3・11大震災でも岩手県野田村保育所では、ちょうど避難訓練の準備中に津波に襲われ、保育園児90人、職員14人全員が無事だった。普段から避難場所・経路の確認、訓練をしてきた施設は犠牲者が少なかったという例がいくつも紹介されている。私自身も今回の地震の大きな揺れに、家の外に飛び出し「家が崩れるかも」という漠然とした恐怖に、ただ立ち尽くしていた。緊急持ち出しのリュックは備えてあるものの、ラジオや懐中電灯は電池切れ、災害は忘れた頃に……まさに格言である。現代時代、年に1度の会社の防災訓練にも何か他人事のように真剣さが足りなかったように

大いに反省。人口約4千人の柏ビレジでも、防災訓練の参加者は自治会役員中心の5、60人、住民は災害時に「否認行動」を取ってしまう、犠牲者が増えるまっつらだろうか。

(柏ビレジ自治会広報部 萩原辰雄)

今年も夏祭りに古本市を開くことができました。古本市を続けているといつも来てくださる方が増えています。その方々との楽しい会話や、また小さかった子供さんたちが成長して、買いに来てくれることがうれしく、そんなひとときを大切に思います。また本や品物のご寄付をありがとうございました。12月の第2土曜日は、

図書ボランティア 便り

図書まつりを予定しています。紙芝居を楽しんだり、歌を歌ったり、工作もあり、とても楽しいですよ。子供さんが中心ですが、大人の方も童心にかえてご一緒にどうぞ。ぜひ来てくださいね！

図書ボランティア一同



道路は車・自転車・歩行者が利用することは勿論、掃除や草取り、生垣や花壇の手入れ、ゴミ出しなどで道端に出ている方もおられます。車の運転には十分に注意が必要です。

特に主要道路にあたる花野井小学校の前の通りは、片側が歩道でもう片側が小学校・人家の並びです。子どもたちは登校時は横断歩道を渡って正門に入り、下校時には小学校の校門を出るといきなり車の通行の多い車道です。横断歩道に子供が立っている傍らを、何台もの車がスピードを落とさず通過するのを見かけることもあります。また人家の戸口も道路に面しており大変危険です。

ビレジ内の制限速度は30km/時です。ビレジ内の道路で制限速度を超えて走っても、短縮できる時間はほんの僅かです。ゆっくり走って皆の安心・安全を確保しましょう。



ゆっくり 走ってね！！



柏ビレジ夏祭り2011



▼ビッグバンドの演奏



▲起震車の体験

今年も、8月20日(土)の本祭りのみでしたが、無事開催された柏ビレジ夏祭り。

雨の降り出しが心配された空模様の中、祭りの最後を締めくくる花火まで、大勢の人出で賑わいました。またたくさんのご祝儀をいただき、ここに御礼申し上げます。

花火も一部、東日本震災義援金として寄付させていただきます。

— 訂正 —
7月の柏祭り田中地区大会で柏ビレジの笹飾りの受賞を織姫賞としてお知らせしましたが、彦星賞(全体2番目)の誤りでしたので訂正してお詫びいたします。

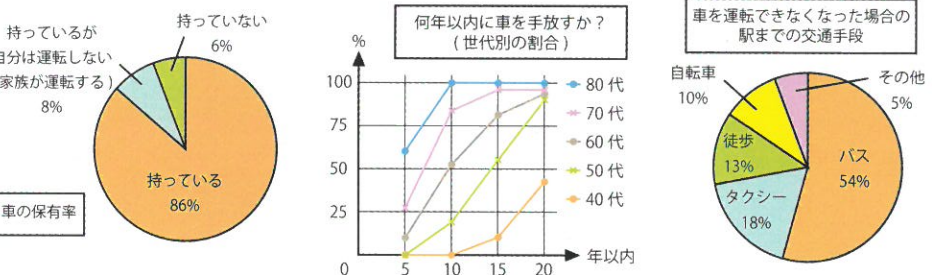
交通と生活に関するアンケート

◆活性化PJ
◆balloon

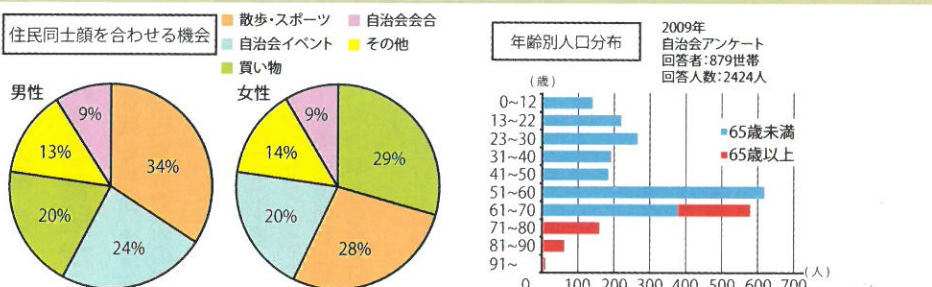
はじめに 開発されて30年。緑豊かな柏ビレジは今もお美しい街並みで有名ですが、これから大きな転換点を迎えます。同時期に開発された全国の住宅地と同様に、一気にまち全体の高齢化が進みます。それに伴い、日常の交通手段を捉え直す必要があります。また、それは日常生活サービスをどう享受するか、という問題にも関係してきます。一方、今回の大震災で強く認識されたように、地域のコミュニティというものが今後重要なものとなってきます。上記の交通・生活・交流に関して、現在の柏ビレジでの実態を把握し、今後のまちづくりを考えるために、今回、全世帯対象のアンケートを実施させていただきました。

交通 車に乗れるのはあと10年！！

現段階での自動車保有率は9割近いが、人口の半数以上を占める50代以上はおおよそ20年以内(60代以上は10年以内)に運転をやめる人々が多く、現状では車に頼った生活であるが、その車に頼れるのもあと10年である。



車にかわる交通手段としてバスへの期待が高いが、バスに対する意見の中では、ルートや本数への不満が多く寄せられており、期待と満足度は相反している。次世代交通ではオンデマンドバスへの関心が高かった。まずは既存のバス路線をどう維持するのが課題であり、今後10年以内にバスという交通手段を見直す必要がある。



交流 男性の地域社会への参加が活性化のカギ

日常生活の延長線上で行える気軽な交流が求められている。女性は買い物等の生活に必要な行為の延長線上で交流を行っているが、男性は趣味などの活動の場において交流を行っている。女性とは異なり、日常生活の延長線上で交流する機会が少ない男性には、サークルや趣味の会など形式的な場所が重要である一方、買い物をはじめ日常生活が重なる場も必要である。また、今後リタイアする男性人口が増える事が予想される柏ビレジにおいて、こうした男性達の地域社会への参加が活性化の鍵になり得る。

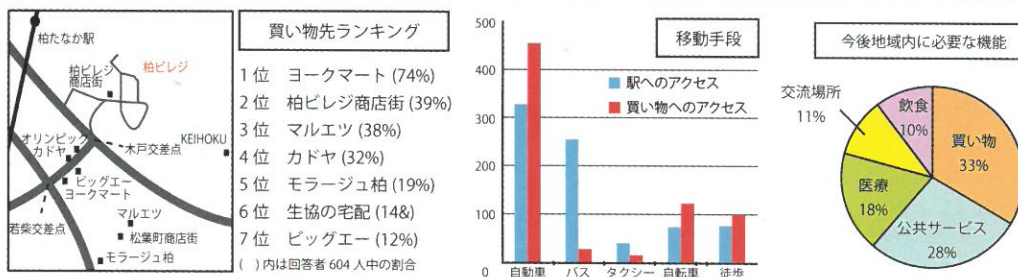
balloonの紹介

balloonは、東京大学大学院生を中心とした都市デザイングループです。都市デザインの実践的・研究活動を行っています。柏ビレジでは住民有志の方々にご協力いただき、まちづくり活動を展開させていただいています。こうした地域は良くなるだろう。そう思った人がどんどん動き、地域を変えていく。それがballoonの目指す都市デザインです。これからの柏ビレジの都市デザインに貢献できればと考えています。今年度中にNPO法人化する予定です。

HP <http://www.tanacar.co.jp/> twitter ball66n

生活 車頼みの買い物。これからどうする?

よく利用する買い物先では、柏の葉キャンパス駅との間のロードサイドショップの利用が約半数を占めている。駅と買い物先への交通手段を比較すると、買い物時の自動車利用は圧倒的に多い。



これからビレジ内に求める機能、サービスとして、買い物へのニーズに加えて公共サービスのニーズも高く、複合的で多様なサービスが期待されている。今後、車を運転できなくなった場合、バスで買い物に行く事が想定されるが、荷物の問題や、時間を自分でコントロールする事ができないなどの問題は解消されない。

まとめ これからの柏ビレジ

交通に関しては、今後車を運転できない人が増えると予想される中で、これからの地域交通のあり方を考える必要があります。特に買い物に関しては、今回の調査により、ビレジ住民の利用する買い物先を把握することができたので、こういった施設に絞って循環バスを通しアクセスを確保する方法や、米や酒類などの重い商品は移動販売してもらうなど、買い物の新たな形態を模索していくことが重要です。今後、地域において、知識やノウハウ、スキルを持ったリタイア後の男性が地域社会にとけ込み、活躍の場を持つことは、地域の活性化にとって不可欠であると考えられます。

～balloonからの提案～

これからのビレジの活性化において、「移動する施設」というものが大きな可能性を持っているのではないのでしょうか。買い物先や駅などへのアクセスを確保すると同時に、ビレジ内に運んで来ると良い施設があるはず。例えば人気の商店やバー、病院などが近所に来ることで、そのサービスを気軽に受けられるだけでなく、地域内の人々と自然と顔を合わせ、話をする機会が増えるでしょう。男女関係なく、お互いの生活が重なり合う魅力的な空間が創出されます。

